

## 新聞に親しみ、興味・関心をもちながら、主体的に活用できる子ども

～一人ひとりの「新聞日記」をとおして～

長野県上伊那郡南箕輪村立南部小学校 三澤俊彦

### 1. 実践の概要

#### (1) 平成11年度

この年は、5学年の学級の中核的な活動（学校裁量の時間）や国語・社会科の学習の時間に新聞を活用してきた。

子どもたちの新聞の利用状況は、全家庭で新聞を購読しているものの、テレビ欄や4コママンガ、たまにスポーツ欄を見るぐらいで、主な情報源はテレビであった。そこで、新聞日記を提案し、子どもたちが新聞を手にとって、様々な紙面を見ることができるよう、教師側から意図的に取り組ませた。その他、主な活動は以下の通りである。

- ①朝の時間のスピーチ（新聞日記）
- ②ニュース記事を読もう（国語）
- ③新聞から見える日本・世界（社会）
- ④4コママンガを楽しもう（国語）
- ⑤自分で考えたテーマに基づき調べ学習（学校裁量の時間）

成果として、以前より新聞を読む日数や時間が増し、読む記事のジャンルもテレビ欄・スポーツ欄ばかりでなく、社会面や政治経済面などにも及ぶようになってきた。しかし、漢字や語句の難しさが小学生が新聞を読むことに大きな壁になっていることもわかった。これは始める前から十分予想していたことではあるが、読み進めていく上で障害となる大きな問題であることがわかった。また、子どもたちの新聞に対する興味や関心がことのほか大きいことから、教師側からの要求が大きくなり、子どもたちに背伸びさせてしまうこともあった。まずは、子どもが新聞を手にとり、目を通すことを目標におくことが大切だと思った。

#### (2) 平成12年度実践校としての活動

新聞日記の活動により、以前より新聞を読む機会が増えるとともに、読まれる記事のジャンルの広がりも見えてきた。これは、意図的に新聞に接する機会を設けたことや自分が関心を持った記事を友だちも読んでいることを知り、自信が持てたことなどによるものだと思われる。そこで、活動の目標を「新聞を手にし、新聞に親しめる子ども」「新聞を活用し、生き方にせまる子ども」の2つにおき活動を進めていくことにした。主な活動は以下の通りである。

- ①N I E コーナーの設置
- ②新聞閲覧コーナーの設置
- ③バックナンバーの保存
- ④新聞社見学（修学旅行東京朝日新聞社）
- ⑤新聞日記
- ⑥新聞切り抜き作品づくり（自分のテーマにそって、シドニーオリンピック）

⑦自作新聞作り（夏休みの課題、樹木博士の活動にあわせて、自分のテーマにそって調べ学習をしそのまとめを新聞の形で行う）

新聞日記をほぼ半年続けてきた子どもたちの感想をみると、今まであまり話をしなかった友だちと新聞の記事や写真のことで話ができよかったことや、父母と新聞の記事を通して話ができよかったとあった。また、オリンピックの記事の切り抜き作品作りからは、選手の苦しみや喜びに共感し、その生き方に触れる感想があり、自分の生き方を振り返る機会にもなったと思われる。課題としては、調査活動が学校内にとどまるところがあり、自分の足を使って目や耳などを通して調査活動ができることや関係する人々との交流も期待したところである。

(3) 平成13年度の実践の方向

今年度も平成12年度までの成果と課題をもとに、新聞を楽しく読んで考えることができるように実践の方向を考えた。また、新学習指導要領の完全実施を目前にして、総合的な学習の時間と新聞学習の関係も探っていきたいと考えた。

全校研究テーマ

自分の課題をみつけ、すすんで授業にとりくむための指導はどうあったらよいか。

部会研究テーマ

体験的な活動を生かして、情報処理能力を高める指導はどうあったらよいか。

(4) 活動の目標

① 新聞を手にし、新聞に親しむ子ども。

- ・自宅に配達される新聞を進んで読んだり、学校の新聞を見たり、読んだりすることができる。
- ・自分が選んだ興味ある記事を読みスクラップし、読後の感想を書くことができる。
- ・興味のある記事について、友だちや家族との話題にすることができる。
- ・新聞そのものについての学習をすすめることができる。

② 新聞を自分なりに活用し、生き方にせまる子ども。

- ・自分が興味を持っている事象をもとに、自分のテーマを決め、関連する記事を新聞の中から探すことができる。
- ・探した記事を、自分なりの方法でまとめ、情報として生かしていくことができる。
- ・記事の要点を理解するとともに、内容に対する自分の感想や意見をもつことができる。
- ・取り上げた人物の生き方に共感し、自分の生き方について考えることができる。
- ・自分の興味、関心をもっている事象を発表することができる。

(5) 活動の仮説

- ① 新聞に親しむことができるような、利用しやすいような環境づくりを心がけたり、自分たちが興味関心がある記事を切り抜く活動をしたりすることにより、子どもたちの新聞に対する親しみが増していこう。
- ② 毎日、新聞に目を通し、記事に対して共感したり、批判したりすることが、自分のものの見方考え方や自分の生き方の方向を自覚したとき、主体的な新聞活用になっていこう。

(6) 活動の内容

- ① 新聞に親しむ環境づくり

- ・新聞閲覧N I Eコーナーの設置
- ・バックナンバーの保存
- ・新聞日記の活動
- ・新聞博物館見学 新聞作り体験
- ② 新聞の主体的な活用を目指して
  - ・新聞記事や写真を教科学習での教材や資料にする
  - ・新聞切り抜き作品づくり
  - ・テーマにもとづいた自作新聞づくり

## 2. 実践の内容

### (1) 社会科5学年「私たちの生活と食料生産」

本校の5年生は近くの田をお借りして米づくりの体験を行っている。田植えと稲刈りが主な活動ではあるが、田を提供し子どもたちができない仕事をやって下さっている有賀さんから米づくりの苦労や稲の生長についてお話を聞き、自分たちのバケツイネの観察とともに学習をしている。

- ① 小単元名「食を支える達人たち イネの生長と農家の人々の工夫」  
宮田兼任さんの米づくり「アイガモ農法の費用や苦労」
- ② ねらい  
イネの生長に伴う農家の人々の仕事を追いながら、苗づくりから収穫までの工夫や努力、心配ごとなどについて関心を高める。
- ③ 展開の概要

主 な 学 習 活 動	子 ども の 様 子
1. 米ができるまでに、農家の人々は、どんな工夫・努力をしているか、知っていることを発表し合う。  2. 学習カードに載せられているそれぞれの場面について、話し合いをもとに、どんな説明文を書けばよいか発表する。 苗づくり・水の管理・病害虫・天候・収穫についての資料を読む。 できあがった場面説明を発表し、疑問点をさらに詳しく調べていく。 (4月から新聞の中からイネに関する記事を集め模造紙にスクラップし、子どもたちがいつでも見ることができるようしておく。)  3. 自分たちとちがったつくり方をしている農家の人がいることを知る。 宮田さんのアイガモ農法の記事を読み感想や疑問点を発表し合う。 ※担任が朝日新聞支局へ連絡をし住所を	<ul style="list-style-type: none"> <li>・てまがかかると有賀さんが言っていた</li> <li>・水の管理はわたしたちはできないけれども、どうやっているのかな。</li> <li>・半年もの長い間がんばっているんだ</li> <li>・病気や虫にやられないように気を付けているんだ</li> <li>・機械化貧乏って何のこと。</li> <li>・米づくりをする人が減っているって資料集に書いてあった。</li> <li>・新聞の記事で見たんだけど、私たちと違うつくり方をしている人がいるよ。有機農法って書いてあるよ。</li> <li>・自分たちと違うつくりかたがある。</li> <li>・アイガモ農法っていうんだ。</li> <li>・アイガモ農法と普通のイネづくりとで</li> <li>・農薬を使わない方が安心だよ。</li> <li>・電気の柵を作るって書いてあるよ。費用はどのくらいかかるんだろう。</li> <li>・普通のつくり方とどれくらい違うんだろう。</li> </ul>

<p>教えていただいた。</p> <p>4. 疑問点を聞いてみよう。</p> <p>* 聞いた内容</p> <p>① アイガモは一匹いくらですか。</p> <p>② ネットや防鳥糸にかかる費用を教えてください。</p> <p>③ アイガモを使うことでの苦勞を教えてください。</p> <p>④ どうしてアイガモを使うことにしたのですか。</p> <p>⑤ アイガモはなぜ雛を使うんですか。 大人のアイガモは使わないんですか。</p> <p>代表がファックスで疑問点をたずねる</p> <p>5. 返事を資料にし、どちらの米づくりが いいのか自分の考えを發表し合う。 普通のつくり方については学校の池上 先生から聞いてきた。</p> <p>6. その他の疑問点について調べる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• どうして宮田さんがアイガモを使うかわかった。</li> <li>• 環境を守ることは大切だ。</li> <li>• どちらも費用がいる。農薬と殺虫剤の値段とアイガモと防鳥糸の値段は同じくらいかな</li> <li>• アイガモ農法はアイガモをしつれたり、ネコから守ったりするのが大変そうだ。</li> <li>• 24人中22人がアイガモ農法を支持。支持する子どもの理由の第1番は農薬を使わないから。支持しない子どもは自分たちがやるには大変そうだから。という理由が主なものだった。</li> </ul>
--	--

自分たちも米づくりを体験していることもあり意欲的に追究していた。一学期のため新聞は教師が持ってきたり、子どもたちが見つけてきたりしたものを使った。模造紙にスクラップしていったので、子どもたちは時々見ては、自分たちの米づくり体験・バケツイネの生長観察と比較したり、仕事の内容について考えたりしていくことができたと思う。自分たちの田植えの記事が掲載され、また同じ5年生がいろいろな地域でやっていることにも関心が向き、興味関心をもとに新聞記事を読んでいく活動にも役だっていた。

## (2) 特別活動・体育5学年「ニュースポーツ・キンボールをやろう」

2月の新聞日記の中に駒ヶ根市で「キンボール」というスポーツを楽しんでいる人たちの記事と写真がスクラップされ、自分たちもやってみたいと感想に書かれていた。学級の代表が中心になって教育委員会に依頼し、体育の授業で楽しんだ。

① 単元名 「キンボール」をやろう

② ねらい

新聞のスクラップ（新聞日記）を毎日やっている子どもたちが、興味関心を持った記事や写真をもとに、自分たちがやりたいことを自分たちの力で企画運営することを通して、新聞から得た情報を有効に活用し、自分たちの学校生活に役立てることのよさがわかる。

③ 展開の概要

主な学習活動	子どもの様子
1. 「キンボール」をやってみたいがどうしたらいいのだろうか。	• 「キンボール」っておもしろそうなのでやってみたいけどどこへ言えばいいんだろう。

<p>2. 教育委員会へお願いしよう。</p> <p>3. お願いの手紙を書こう。</p> <p>4. 役割分担を決めておこう。</p> <p>5. 「キンボール」を教えてもらって、みんなで楽しもう。 3種類のゲームを楽しむことができた。</p> <p>6. 自分たちの活動を振り返り、自己評価を行い、お礼の作文を届ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 代表が学校から電話をして、教えてもらえるか聞いてみる。</li> <li>• 引き受けてもらえるので、そのお礼とお願いの手紙を書くことになる。</li> <li>• あいさつ、準備、片づけ等の分担を学級会を開いて決める。</li> <li>• 始めはボールの大きさに戸惑いがちであったが、慣れてくると次第に声も出てゲームらしくなっていた。</li> <li>• 指導してくださった方3人からは、「覚えが早くて感心しました」とほめていただき、とても喜んでいました。</li> <li>• 感想には、ボールが大きくてはじめてできるかどうか心配だったが、とても楽しめたと書かれていた。</li> </ul>
---	---

新聞スクラップ（新聞日記）には、記事の要約・感想が書かれている。その中には、事件事象への憤りや環境問題への積極的な関わりへの願い、そして季節や気候を実感する姿まで様々である。新聞の記事や写真から得た情報（願いや思い）を自分の中だけにとどまらせるのではなく、実行・体験できるようになるとそこに活動の達成感や喜びが出てくると思われる。この「キンボール」体験はちょうどよい機会になった。

### 3. 成果と課題

何種類もの新聞を6ヶ月間という長期間読めることは、本校の子どもたちにとって大変よい機会となった。例をあげれば、3年生は、自分たちの森の活動に読売新聞の記事を参考にし、森を守るために、村長さんに働きかけて森の入り口に『車止め』を設置する活動へと発展させた。4年生は、長野日報の記事を参考に花作りに取り組み、校区内の道に花壇を設置し、地主さんと花作りでも交流を深め、その活動をホームページで紹介し静岡県土肥町の小学校との交流に発展していこうとしている。

手軽に手に入れることができる新聞ではあるが、大人のものという既成概念が大きい。新聞日記では記事を通して新たな親子の会話ができたり、友だちの違った考え方に触れたり、子どもたちは新聞を楽しんで読み考えている。できれば新聞をスクラップ（新聞日記）する活動がなくても、子どもが一般紙を幅広く読むことができるようになれば、読む力や情報を積極的に得て、自分の生活の中に有効に取り入れ、生きる力をつけていけるようになるのではないかと思う。

2年間の実践校としての活動を通して、まずは教師自らが毎日、新聞に目を通すことが大切だと思った。新聞日記の感想を読みながら、この子はこんなものの見方考え方をするのかとびっくりしたり教えられたりすることがたくさんあった。そして、スクラップされている新聞を教師自身が改めて読み返す機会にもなり、その記事について子どもたちと考え合うきっかけにもなった。実践校ではなくなった14年度も学級単位ではあるが新聞を取り入れて学習を進めていこうと考え、修学旅行で新聞博物館を訪れたり、ワールドカップの記事を使い国際理解教育に役立てたりしようと考えている。総合的な学習の時間に使える予算もあり、教師自身が購読している新聞を持ってこなくても、学級で新聞を購読できる環境もできつつある。

8月9日付  
中日新聞記事

# 興味ある記事 「新聞日記」に

「新聞日記」は、その興味ある記事が、児童の心を捉へ、その心を育てることに役立つ。児童は、新聞を通じて、社会の動きを知り、自分の生活と社会のつながりを感じ、自分の将来を夢見る。新聞は、児童の心を育て、その心を育てる。

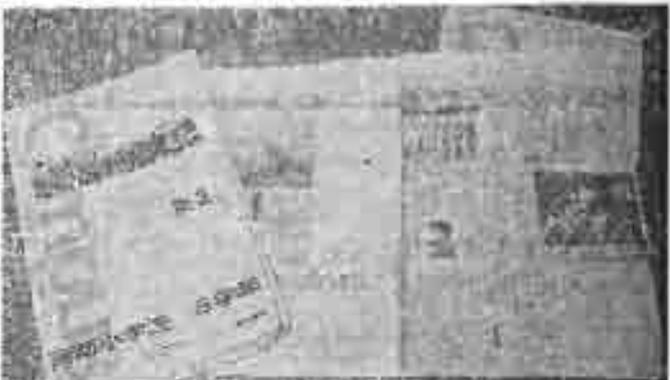
## 南部小学校

新聞日記は、その興味ある記事が、児童の心を捉へ、その心を育てることに役立つ。児童は、新聞を通じて、社会の動きを知り、自分の生活と社会のつながりを感じ、自分の将来を夢見る。新聞は、児童の心を育て、その心を育てる。



児童の心を育て、興味ある記事を通じて、児童の心を育てる。

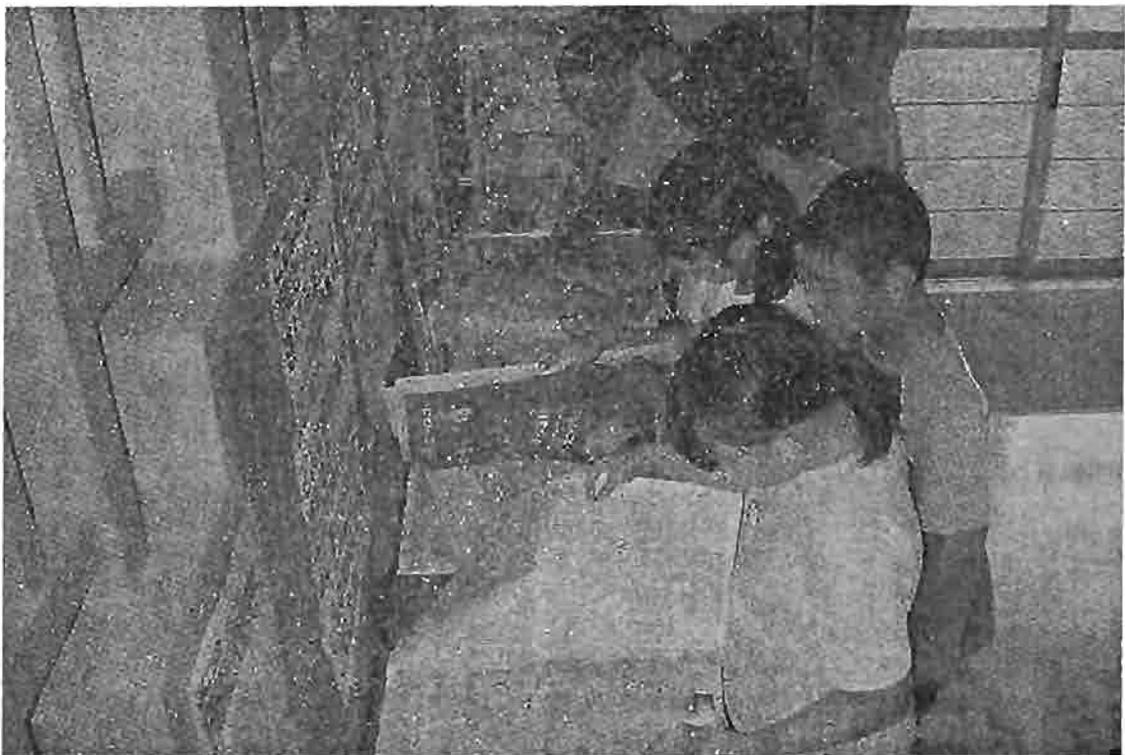
# 読む、書く、話す力養う



子どもたちの持っている新聞日記

「新聞日記」は、その興味ある記事が、児童の心を捉へ、その心を育てることに役立つ。児童は、新聞を通じて、社会の動きを知り、自分の生活と社会のつながりを感じ、自分の将来を夢見る。新聞は、児童の心を育て、その心を育てる。

# 南箕輪村南部小



児童が自然と新聞に親しむ南箕輪村南部小学校

南箕輪村の南部小学校で新聞を活用した授業が始まって三年。「児童に大きな変化は見られない」が、着実に新聞が児童の生活の一部に溶け込んでいるようだ。毎月、新聞を読むという社会の目が向くようになってきている。

新聞を活用した授業を取り組んでいるのは、三沢俊彦教諭。児童が新聞で得られる情報を収集し、その情報に検討や分析を加えて自分の意見を述べていく狙いがある。

昨年度はNIE実験校に選ばれ、当時の六年生を中心に新聞の活用を実践してきた。児童が自然と新聞に親しめる環境を整えるため、校内には新聞閲覧やNIEコーナーを設置し、バックナンバーを保存。修学旅行では、在野新聞社を見学していった。

授業では、国語の時間

## 国語力アップに一役

### 記事の要約や「5W1H」

に新聞記事の要約や感想文、5W1Hの書き出しなどを活用している。社会の時間には新聞から日本や世界の情勢を眺め取った。このほか四コマ漫画も授業の材料になった。書き出し部分の言葉を選び、思い思いの言葉を挿入して創造性をほぐす。

新聞活用を始め、児童にも少しずつ変化が現れた。新聞を媒介として親子の会話が増え、希薄になった人間関係の改善にわずかながら寄与しているという。

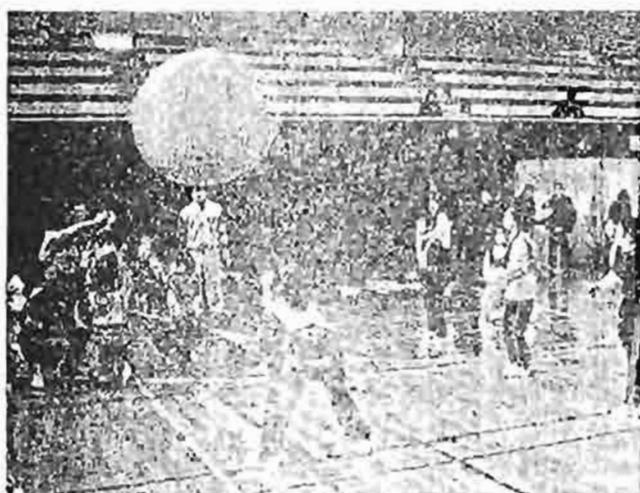
「高校と同レベルのことをしているが、高校生のように新聞情報を活用するまでには至らない」と三沢教諭。「情報やろうする力は卒業後の児童がそれぞれ学び取ること。小学校では新聞に親しむ土壌がはぐくまれば、それだけでいいのでは」と話している。

抱きつくようにしてボールを受け止める。大きなボールを一人で支えるのは難しく、4人のチームワークが必要



直径1.2m 重さ1kgの球打ち合い競う

# 「キンボール」



駒ヶ根市で十七日、カタタ発祥のニュースポーツ「キンボール」の初の市民大会が開かれた。中学のクラスメート、職場の同僚などさまざまな組み合わせの十六チームが参加。直径約一・二m、重さ約一kgの大きなボールを打ち合い、得点を競った。

## 駒ヶ根市で市民大会 際どいプレー続々

一チーム四人ずつで、同時に三チームがコートに入る。サーブするチームは「オムニキン」の掛け声の後、レシーブするチームを指名。指名されたチームが受け止められなかった場合、他の二チームに得点が入る。受け止められたときは、そのチームがサーブを打って試合を進める。

床に落ちる寸前に足を伸ばしてけり上げたり、体をのけぞらせて受け止めたり、際どいプレーの連続。せっかく受け止めたものの、バランスを崩してボールを弾き飛ばしてしまったりもあつた。

地区の仲間と参加したチームは「けりこぎ」のスポーツだけでなく、競技ながらプレーで遊ぼう」と笑顔を見せていた。

サーブの瞬間。ボールがどこに飛ぶか、他のチームは身構える



